

生理学実習

責任者：望月 泰男
学年・学期：第1学年・後期

単位数：1単位(30時間)

◆一般目標(GIO)

生理学講義並びに臨床検査技師領域の関連科目を修得する。さらに検体採取及び生理学的検査に影響を与える因子を解剖学栄養学、薬理学などの観点から系統的に理解することを目標とする。生体の持つ様々な機能や構造について講義で学んだ知識を自らの手で体験、学習し、合わせて実験機器の扱い方の基礎知識も身につける。

◆到達目標(SBOs)

1. ヘマトクリット値について述べるができる。
2. 赤血球膜の浸透圧について述べるができる。
3. 抗原と抗体について述べるができる。
4. 沈降反応について述べるができる。
5. 凝集反応について述べるができる。
6. 循環器系について述べるができる。
7. 静的平衡機能について述べるができる。
8. 順応について説明できる。
9. 同時対比について説明できる。
10. 盲点について説明できる。
11. 瞳孔反射について説明できる。

◆学習方法

プリント、実習用講義、教科書、実際の実習

◆評価方法

出席、実習態度、レポート、実習試験

◆教科書

臨床検査学講座 『生理学』 佐藤 健次 著 医歯薬出版(株)

◆参考書

『生理学実習書』 日本生理学会 編著 南江堂

◆教員紹介

担当教員は病院での勤務経験に基づいて、臨床検査技師養成に向けた授業を展開する。

回数	項目	講義内容	担当
1	序論	基本的な機器の取扱方、注意事項	望月
2			
3	血液の性状①	ヘマトクリット値・赤血球浸透圧抵抗試験	〃
4			
5	生体防御系①	抗原抗体反応の理解(沈降反応)	〃
6			
7	生体防御系②	抗原抗体反応の理解(凝集反応)	〃
8			
9	実習内講義	上記4つの実習の重要点のまとめ	〃
10			
11	平衡機能	静的平衡機能検査	〃
12			
13	感覚(眼)	視覚機能 盲斑、対光反射	〃
14			
15	実習内講義・テスト	上記2つの実習の重要点のまとめ。 テストにより学生の理解度を確認する。	〃
16			